3/29 Wed.2016

NODE vol.8

kanayama machizukuri kawaraban

金山地区のまちづくりを語る会が、
金山のまちづくりに関わる皆さんにとっての
「交流や情報の結節点」でありたい。
次々と新たな活動が生まれるような、
「創造力の結節点」といえる場でありたい。
そんな願いを込めて、本誌の名前を
『NODE 【結節】』としました。

【路上ﾌｧｯｼｮﾝｼｮｰ】

【天神ﾜｰｸ体験】

【天神ｸﾘｰﾝﾃﾞｰ】

【天神ｻﾝﾀ大作戦】

■設立　2006 年 4 月

■街の目標像　『歩いて楽しいまち』

■会員数　123 会員（2016 年 2 月時点）

■会員構成
- □地区会員（36 会員）エリア内の地権者・管理者など
- □一般会員（79 会員）地区に関係する企業・団体など
- □特別会員（8 会員）行政機関・教育機関など

【We Love 天神協議会の概要】

We Love 天神協議会　事務局長
飯田　浩之　さん

はじめに

前回の『金山地区のまちづくりを語る会（以下、語る会）』では、まちづくり方針や、今後の語る会の組織のあり方について検討しました。その際、参加者の方々から「語る会での活動の原動力となる、『金山のまちが良くなるという実感や期待感』を参加者が共有できているのか？」という問いかけがありました。また、まちづくり方針や組織のあり方について検討していくにあたって、「他地区で活動されているまちづくり団体の話を聴いて参考にしたい」とのご意見がありました。

これまでの語る会を振り返ると、「語る会での活動を通して、金山がこんなふうになれば良い」という事務局としての目標を示しきれていませんでした。そこで、今回の語る会では、我々事務局がまちづくり組織・活動の目標の一つとしてあげている『We Love 天神協議会』の飯田浩之事務局長にお越しいただき、まちづくり方針の意義や活動内容、協議会の運営方法などについてお話を伺いました。飯田事務局長のお話から、今後の語る会の組織や、まちづくり方針の必要性などをイメージして頂ければ幸いです。

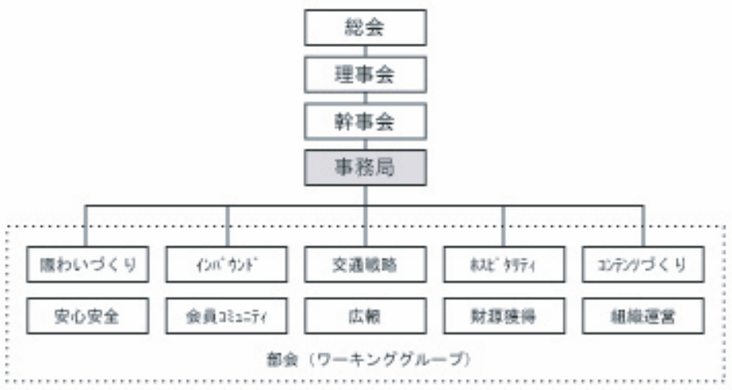
以下、飯田氏のお話しから天神地区のまちづくりについてまとめました。

西鉄福岡（天神）駅を中心とした半径 500m のエリアを対象

【商業施設の集積】

- ■岩田屋
- ■新店町商店街
- ■新天町商店街
- ■福岡三越
- ■福岡天神大丸
- ■ソラリアプラザ
- ■ソラリアステージ
- ■天神コア
- ■イムズ
- ■天神地下街
- ■ビブレ
- ■福岡パルコ
- ■VIORO
- ■ミーナ天神
- ■ダイエーショッパーズ

【図 1　天神地区の概要】



【図 2　組織構成】

※地区会員が建物規模に応じて負担

分類	項目
一般財源	年会費・自治活動費※
	行政負担金
	自主財源
	繰越金等
特定財源	特定事業負担金
その他	—

【図 3　資金調達の仕組み】

天神地区について

近年、福岡市は国内で 5 番目に人口の多い政令指定都市となり、インバウンド需要の増加もあって非常に元気があります。とりわけ、天神は博多と並んで福岡市の二大都心として位置づけられており、「歴史のある博多」に対して「若者文化のある天神」として賑わっています。天神地区には百貨店やショッピングセンターなどの商業施設が多く集積しており、後述するように WLT の会員の多くが商業施設関係の企業となっています (図 1)。

また、福岡市は近年、『グローバル創業・雇用創出特区』として国家戦略特区の一つに認定されました。これによって、賑わい創出のための道路占用基準の緩和（例えば、歩行者天国がしやすくなる）などの特例が認められるようになりました。

We Love 天神協議会の概要

We Love 天神協議会（以下、WLT）は、福岡・天神エリアの企業、団体、住民、行政など多様な活動主体で構成されるエリアマネジメント団体です。安心安全で快適な環境の形成、地区の価値・集客力の向上、地方経済の活性化、及び生活文化の創造などを目的としてまちづくりを推進するため、2006 年に設立されました。

2001 年に WLT の前身となる西日本鉄道（株）（以下、西鉄）の会社内で天神委員会が発足し、その後、活動規模や活動範囲を拡大するために天神地区の企業や団体と連携し、地域としての活動がはじまりました。取組みを続けるうちに、「組織化して常駐のスタッフを配置した方が良い」との声があがり、事務局として主に西鉄の職員が配置されるようになりました。

現在、WLT には 123 会員が入会しており、その数は年々増加傾向にあります。会員から年会費や負担金などを集め、平成 26 年度においては年間約 2 億 4 千万円もの活動費を得ました。

国家戦略特区の
『ｴﾘｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄに係る道路法の特例』
を適用することにより
公道を活用した賑わい創出ｲﾍﾞﾝﾄが可能に

↓

きらめき通り歩行者天国
『FUKUOKA STREET PARTY』

【図 5　歩行者天国の概要】

【いつもの様子】

【歩行者天国時の様子】

まちづくりガイドラインについて

WLT の『天神まちづくりガイドライン』の冒頭には、天神地区の様々な課題に対応していくためには、従来までのように行政に任せるのではなく、事業者・団体・行政などの多様な地区の関係者が協力する『エリアマネジメント』が大切だと書いてあります。また、そのうえで、会員がまちづくりのコンセプトを共有し、まちづくりの企画立案から関連事業の実施までを一体となって、自立的・継続的に取り組むことが必要だと書かれています。

組織体制について

図 2 のとおり、事務局から提出された案件は、月に一度開催される『幹事会』にて審議されます。幹事会は主たる意思決定の場であり、各社部長クラスが十数名集まります。幹事会の上には各社の役員 16 名が集まる『理事会』があり、三か月に一度の頻度で開催されます。そして、理事会の上には年に一度の頻度で全会員が集まる『総会』があり、決裁、予算決定、事業計画などはこの場で承認を得ます。

また、事務局の下にはワーキンググループがあり、ここで各取り組みが実施されます。

活動収支について

図 3 のとおり、活動資金は「一般財源」、「特別財源」、「その他」の 3 つから集められています。一般財源は、会員からの「年会費」、会員から所有建物の延べ床面積に応じた費用を拠出してもらう「自治活動費」、「行政負担金」、「自主財源」、「繰越金等」から構成されています。

「自治活動費」というのは対象地区の建物規模に応じて会費を負担していただいているものです。エリアマネジメントでは、欧米などで成果をあげている BID（Business Improvement District）制度による資金の調達方法があり、日本では、大阪の「グランフロント大阪」を含む「うめきた先行開発区域」エリアで実施されています。天神の「自治活動費」はこのような強制的なものではありません。

「特定財源」は、賑わい施策・イベントを開催する毎に民間企業から協賛金を頂く「特定事業負担金」があります。現状としては、西鉄がその約 7 割を負担しているとのことです。

活動内容について

協議会の会員の多くが商業施設関係ということもあり、『賑わいづくり』や『街への集客アップ』が活動の約 8 割を占めています。主だったイベントとしては、国家戦略特区の『エリアマネジメントに係る道路法の特例』を適用した『FUKUOKA STREET PARTY』が 挙げられます（図 5）。このイベントは、公道（老舗百貨店の『岩田屋』前の「きらめき通り」）を期間限定で歩行者天国としたものです。平成 27 年度は年に 2 回の頻度で開催されましたが、平成 28 年度には年に 4 回の開催を目指して準備を進めています。将来的には、毎週末に開催できるようにしたいとのことです。

まちへの集客は WLT の役目で、店舗への集客は各企業の役目。

講演後、語る会の参加者からは「天神地区のまちづくり」に興味や関心を持たれ、「実際のまちを見にいきたい。」との声もありました。

事務局としては、「天神」や「博多」など、実際のまちを見て、お話しをうかがえる機会を作りたいと思いますので、その際は是非ご参加ください。

質疑応答

飯田事務局長の講演後、約 1 時間にわたって熱い質疑応答が繰り広げられました。その一部をお伝えします。

Q.1)WLT は法人登録しているのでしょうか？
A.1)「We Love 天神協議会」は任意団体で、ここが実質運営しています。その他、一般社団法人「WeLove 天神」があり、こちらが様々な申請や契約などの事務手続きをしています。

Q.2)123 会員とのことであるが、会員のうち常勤スタッフ（西鉄）以外の方々はどのような関わり方をしているのでしょうか？
A.2)常駐は 6 名います。内 4 名は西鉄で、その他の 2 名は派遣スタッフです。加えて、行政の中に WLT に係わる担当者が 3 名います。

Q.3)WLT に参加する動機などを教えてください。
A.3) 天神地区には、元々まちぐるみで取り組む土壌があります。戦後から「都心界」という共同団体が発足されたという歴史があります。福岡市は第三次産業が中心となっていますので、「人を呼び込まなくてはならない」という共通した目的があったからだと思います。

Q.4)WLT と同様の団体が博多にもあるのかが知りたいです。また、それらとの連携・共生関係についても教えてください。
A.4) 博多まちづくり協議会があります。九州新幹線開業に向けた博多地区の開発時に天神は危機感を抱きました。その時に特定事業負担金を増やし、集客事業に力を入れました。但し、ここ 1 年から 2 年の間に、「博多 対 天神」ではなく、連携することで回遊性を持たせ、広域集客を図った方が良いのではないかという考え方に移行してきました。

Q.5) 行政・関係団体との連携について教えてください。
A.5) 毎年 1200 万円の補助を頂いています。公共空間での賑わいづくりが WLT の役目なので、行政との連携は必須です。WLT の取組みは『新しい公共』として我々が実現しているということに意味を見出しています。

Q.6) 資金調達面で大規模商業施設と中小規模店舗とのギャップはありますか？
A.6) 自治活動費を採用しているので、団体規模相応の負担金を頂いていると考えています。

Q.7) 屋外イベントと MICE（企業等の会議・研修・旅行、国際会議、学術会議、展示会等）の関係についての詳細を教えてください。
A.7) 福岡市は国家戦略特区としてグローバルな取組を実践しています。MICE は経済効果も大きいので、MICE と歩行者天国とのコラボをすることで行政と一緒に MICE 誘致に取り組んでいます。

Q.8) どのように案が決定されているのかを教えてください。また、部会には全ての会員が参加しているのでしょうか？
A.8) 現状は事務局が案を出して幹事会・理事会等で審議し決定しています。実際に活動を行う部会は、各会員団体の関係するメンバーが集まって構成しています。

Q.9) 自主財源となっているオープンカフェは、協議会として市から公共空間を借りて転貸しているのでしょうか？
A.9) そうではなく、民間事業者が、売り上げの一部を WLT に寄付することを条件に、公共空間を借り受けています。

Q.10) 案は事務局がつくっていると伺いましたが、代理店などのパートナーの協力を得ているのでしょうか？
A.10) 西鉄にも西鉄エージェンシーがありますが、そこに限っている訳ではありません。特定企業を選択しているわけではなく、複数企業の協力を得ています。最近は、テレビ局の協力を得て情報発信や企画づくりを行いました。

金山ぶらり日誌

◆名古屋フィルハーモニー交響楽団
金山駅屋外コンサート（H28.3.21）

金山南ビル 1 F インターコモンで、名古屋フィルハーモニー交響楽団の 50 周年を記念してフル・オーケストラによる野外コンサートが行われました。映画『スター・ウォーズ』のメインテーマが始まると、往来の人たちが吸い付けられるように集まり、金山南ビルの前が人で埋めつくされていきました。

いつもコンサートホールの中で演奏されているオーケストラの響きが、真っ青な空に飛んで行きます。アンコールのラデツキー行進曲に合わせて打つ手拍子、みんなの顔に微笑みが浮かんでいました。

“まち”に音楽があるって素敵ですね。

【当日の様子】